

ロジスティクス環境会議
第6回委員長ミーティング

2006年1月30日(月)16:00～18:00
(社)日本ロジスティクスシステム協会 会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1) 第4回本会議次第(案)について | 資料1 |
| 2) ロジスティクス環境宣言(案)について | 資料2 - 1、2 - 2 |
| 3) 第2期活動概要(案)について | 資料3 - 1、3 - 2、3 - 3、3 - 4 |
| 4) その他 | |

3. 閉 会

【配布資料】

- 資料1 : 第4回本会議次第(案)
- 資料2 - 1 : 各委員会の活動経過
- 資料2 - 2 : ロジスティクス環境宣言(案)
- 資料3 - 1 : 第2期設立概要(案)
- 資料3 - 2 : 第2期の企画検討と活動の基本的なスキーム(案)
- 資料3 - 3 : 各委員会からの提案骨子の整理
- 資料3 - 4 : 第2期テーマと委員会構成(案)
- 参考資料1 : 企画運営委員会の活動経過
- 参考資料2 : 第3回本会議における企画運営委員会からの提案の進捗状況
- 参考資料3 : 第1期設立以降の社会環境変化
- 参考資料4 : 第1期活動の課題
- 参考資料5 : グランドデザイン
- 参考資料6 : 2005年度の活動ロードマップ
- 参考資料7 : 第1期CGL組織図
- 参考資料8 : 第5回委員長ミーティング議事録

以 上

ロジスティクス環境会議 第 4 回本会議

2006 年 3 月 15 日(水)14:00 ~ 16:00
ホテルニューオータニ 麗の間

次 第(素案)

赤字はメモ書きです

1. 開 会 **5分** (司会進行: J I L S 徳田)
・張議長挨拶

2. 議 事 **90分** (司会進行: 張議長)
 - 1) 各委員会の活動報告および提案について **65分** (@10分×6委員会+質疑応答5分)
 - (1) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会
 - (2) 源流管理による環境改善委員会
 - (3) 省資源ロジスティクス推進委員会
 - (4) リバースロジスティクス調査委員会
 - (5) 共通基盤整備委員会
 - (6) 広報・普及専門委員会

2005年度を中心とした3ヵ年の総括

シンポジウム、ジャーナル、ニュース(メルマガ)などの報告
 - 2) 2005年度決算 **5分** (事務局)
 - 3) 企画運営委員会からの総括と提案について **20分** (15分+質疑応答5分)
3ヵ年の環境変化
・京都議定書発効、総合物流施策大綱、改正省エネ法施行、
グリーン物流パートナーシップ会議発足 など
活動の評価と課題(第2期の活動へ)
「ロジスティクス環境宣言」の提案

3. ロジスティクス環境会議の第2期活動について **10分** (5分+質疑応答5分)(事務局)

4. 閉 会 **5分**
・張議長または副議長挨拶

以 上

ロジスティクス環境会議
各委員会の活動経過

【凡例】 : 作成済、 : 作成中

1. 環境パフォーマンス評価手法検討委員会			
【活動方針】			
1) ロジスティクス活動の環境負荷を定量的に把握、評価し、環境負荷を低減するため、荷主企業と物流企業等が相互に連携し、標準的な環境パフォーマンス指標を整備する。			
2) 標準的な環境パフォーマンス指標を広く公開し、関係者に提言する。 環境パフォーマンス指標の標準化			
(1)環境パフォーマンス指標の算出、評価の範囲			
(2)環境パフォーマンスの評価指標 CO ₂ (京都議定書) その他			
(3)環境パフォーマンス指標の算出方法			
【アウトプットの計画と実績】			
2004年度	標準的な環境パフォーマンス評価方法の例示		『二酸化炭素排出量按分ガイド/トラック輸送版』
	マニュアル		
	環境パフォーマンスの算出結果のデータ集		CGLメンバーによる燃料法、燃費方、トコ法の実証結果のまとめ
2005年度	二酸化炭素排出量按分ガイド/トラック輸送版		『二酸化炭素排出量按分ガイド/トラック輸送版 Ver.2』
【委員会からの提案事項】			
標準的な二酸化炭素排出量の算定方法の提案/対企業(2004年度)			
排出係数、排出原単位の標準的な値の整備とその維持管理/対行政(2004年度)			
標準的な按分方法の検討の推進/対企業・関係行政機関・関連団体(2005年度)			
【第2期へ継続するテーマ】			
経営指標とロジスティクス活動の関連付けの検討 包装資材や鉄道など他モードの環境負荷排出量算定方法の検討 など			

2. 源流管理による環境改善委員会			
【活動方針】			
1) ロジスティクスの分野から環境負荷低減に取り組むため、荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業として現状の物流活動をチェックし、見直すための視点とその内容をまとめる。			
2) 合意された内容はマニュアル形式に整理し、関係者の環境活動を支援する。			
【アウトプットの計画と実績】			
2004年度	マニュアル	(1)	『ロジスティクス源流管理マニュアル ver.1』
2005年度	(1)各企業が守るべきこと(法令、条例遵守事項)	(1)	(1)は共通基盤整備委員会にて作成(HP掲載中)
	(2)各企業がやるべきこと及び対策	(2)	『モーダルシフト推進チェックシート・資料集』
	・荷主企業(製造業・流通業等)の物流・ロジスティクス部門		・ロジスティクス・物流部門の視点からモーダルシフト対応のマニュアルを作成中
	・物流・ロジスティクス部門が直接管理可能な範囲		
	・物流企業(運送業・倉庫業等)		
【委員会からの提案事項】			
ロジスティクス、物流に携わる関係者としての基本的な取り組みの考え方などの確認(2004年度)			
モーダルシフト推進のためのマネジメントサイクル(2005年度)			
【第2期へ継続するテーマ】			
荷主企業のロジスティクス・物流部門から企画・設計、生産、販売、環境等の他部門への協力要請する内容のまとめ など			

3. 省資源ロジスティクス推進委員会			
【活動方針】			
1) 省資源・省エネルギーの視点から、サプライチェーンを構成する荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業等が一体となって物流の環境負荷を低減するため、物流諸活動の事例収集を行い、その内容を整理する。			
2) 荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業等が一体となって、課題解決のための方向性をまとめ、関係者に提案する。			
【アウトプットの計画と実績】			
2004年度	企業(間)の各種物流施策の事例集		『省資源ロジスティクス事例集』
2005年度	ガイドライン(実態調査、課題整理、改善方向性)		『物流の取引条件見直しによる環境負荷低減効果に関する調査報告書』
	(1)複数企業間、業際間の各種物流施策に対する課題の整理		・発荷主・着荷主・物流企業間でどのようなことに留意し、実行すればCO ₂ とコストが削減するかなどの観点からのまとめ。
	(2)省資源ロジスティクスを推進するための方針のまとめ		
【委員会からの提案事項】			
物流の取引条件見直しを行うための物流プロセスの可視化・定量化の推進(2005年度)/対企業			
CO ₂ 等の環境負荷とコストの一層の低減を推進することを目的とした、企業間で取り交わされる物流に係る取引条件の見直し			
【第2期へ継続するテーマ】			
企業間の取引条件の問題、課題の掘り下げ(定量化)と効果測定、改善シナリオの具体化 など			

ロジスティクス環境会議
各委員会の活動経過

【凡例】 : 作成済、 : 作成中

4. リバースロジスティクス調査委員会

【活動方針】

- 1) 循環型社会形成に向けて、今後本格的に必要とされるリユース、リサイクルに関わるリバースロジスティクスのモデル(あるべき姿)をまとめる。
- 2) 消費者における還流管理の促進を含め、リバースロジスティクスモデルの構築が可能となる環境整備を促進するため、関係者に対して提案を行う

【アウトプットの計画と実績】

2004 年度 2005 年度	<p>1.家電・OA 機器 共同化、標準化、法規制などについて、更に詳細調査し、実現策と提言をより現実的なものにする</p> <p>2.自動車 リサイクル部品・廃タイヤの深堀調査を継続、実現策と提言を更に現実的なものにする ASR のリサイクル法によるリサイクル実績調査と、(問題あれば) 解決策考察と提言作成</p> <p>3.食品 川下(消費者・小売・卸)におけるリサイクル率向上のため、共同回収 再資源化の流れの構築を目指す。 実現可能な範囲で、返品物流の共同回収モデルを踏まえた提言も作成</p> <p>4.物流(包装資材) パレット共同回収の実態および宅配便包装資材の廃棄状況の実態を調査し、リサイクル率向上の具体的策と提言を作成</p>	『リバースロジスティクス調査報告書 Ver.2』
--------------------	--	--------------------------

【委員会からの提案事項】

- 静脈物流共同化プラットフォーム推進の実行可能性の検証(2004 年度、2005 年度) / 対企業、関連団体、行政
 宅配包装資材の共同リターナブル化推進の実行可能性の検証(2005 年度) / 対企業、関連団体、行政
 リユース、リサイクルの効率的な物流の実現化に向けた提案(2005 年度) / 対関連団体
 関係行政機関との情報交流の推進(2004 年度、2005 年度) / 対行政

【第 2 期へ継続するテーマ】

問題、課題の掘り下げ(定量化)と効果測定、改善シナリオの検討 など

5. 共通基盤整備委員会

【活動方針】

環境会議及び各委員会の円滑かつ効果的な活動を支える共通な「情報資源」を整備する

【アウトプットの計画と実績】

2004 年度	用語集	HP にて一部公開中
	URL リンク集	HP にて公開中
	研究会	4 回開催
2005 年度	関連法規	HP にて公開中
	企業の環境報告書作成ガイド(基本フォーマット) 物流サブセット	各企業から発行された「2004 年度版」の実態調査を中心に現在作成中
	研究会	8 回開催(12 月 7 日時点)
	講習会(セミナー)	第 1 回 2005 年 7 月 28 日(木) 開催 第 2 回 2006 年 1 月 20 日(金) 開催

【委員会からの提案事項】

- 『グリーンロジスティクス・フォーカスレポート(仮)』の作成 / 対企業(2005 年度)
 現在各企業から環境報告書が発行されているが、物流部門から書きたい事が、自由に書けないこと、改正省エネ法の施行、環境報告書の変化(CSR、簡素化、サイトレポート)があり、ロジスティクス、物流にフォーカスしたレポートが必要である。

【第 2 期へ継続するテーマ】

環境報告書「ロジスティクス・サブセット版」の試作 … 継続
 環境ロジスティクス用語のさらなる充実(用語数を増、オープンソースの実践) … 継続
 広く環境会議メンバーが参加できる『オープンな研究会』の開催 … 継続
 海外の環境とロジスティクスに関わる政策動向、企業動向の調査 … 持越しなど

第 1 期ロジスティクス環境会議
企画運営委員会からの提案
「ロジスティクス環境宣言」(案)

各委員会で作成されたアウトプット(成果物)は、CGLメンバーがCO2等の環境負荷とコストを低減する活動を推進する際に活用されることが期待される。

CO2等の環境負荷とコストを低減する活動に積極的に取り組むことを環境会議メンバーに確認する文書として、「**ロジスティクス環境宣言(仮)**」を作成してはどうか。

ロジスティクス環境会議メンバーは、循環型社会を実現するロジスティクスを構築するため、二酸化炭素排出量などの環境負荷低減の目標を各社で設定し、目標達成に向けたマネジメントサイクルを推進する。

また、より低減効果を高めるため、発荷主企業・着荷主企業・物流企業が協力し、包装、輸送、保管荷役等の領域におけるCO2等の環境負荷とコストを低減する環境と調和したロジスティクス(以下、グリーンロジスティクス)活動に積極的に取り組む。

グリーンロジスティクス活動のマネジメントサイクル推進

グリーンロジスティクス活動を展開するため、必要に応じて環境会議のアウトプットである各種ツールを活用し、継続的なマネジメントサイクルを推進する。

PLAN

基本的な考え方

『源流管理マニュアル』

活動すべき施策

『モーダルシフト推進チェックシート・資料』

各アウトプットの
概説を入れる。

DO

実施段階での他社活動の参照や活動の見直しなど

『省資源ロジスティクス事例集』

『物流の取引条件見直しによる環境負荷低減効果に関する調査報告書』

CHECK

活動の定量的把握と評価

『二酸化炭素排出量算定ガイドノトラック輸送版』

活動結果の報告

『グリーンロジスティクス・フォーカスレポート(仮)』

ACTION

上記のフローでCO₂等の環境負荷とコストを低減する活動を計画、実施、評価する。
なお、リバースの分野については問題点の所在や課題を見出すため、以下の調査報告書を参照されたい。

『業界静脈共同物流プラットフォーム構築調査』

家電OA、自動車、食品、物流分野

その他、関連情報や用語については、以下のツールを参照されたい。

用語集

関連法規

関連リンク集

など

以 上

ロジスティクス環境会議 第2期設立概要(素案)

以下に示す素案の中で、企画運営委員会の構成および委員会登録について、第1期とは異なる代替案を作成している。

本資料では特に上記2点を中心にご議論いただきたい。

1. 名称：ロジスティクス環境会議（第2期）

英文名称：Conference on Green Logistics in Japan

2. 目的：循環型社会を実現するロジスティクスの構築

～個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる～

3. 目標：行政・自治体・大学等の研究機関・関連団体と連携を図りながら、環境と調和したロジスティクス方針・活動を通じて循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取り組む企業を増やす。

4. グランドデザインの実現に向けた活動：

- 1) 環境パフォーマンス評価の推進
- 2) 源流管理¹の確立
- 3) サプライチェーンの環境負荷低減と効率化の推進
- 4) リバースチェーンの適正化と効率化の推進
- 5) 1) から4) の実現を支援する情報通信等の技術の整備

1：企業の社会的責任として、ライフサイクル全体にわたって環境負荷を低減するため、ロジスティクスの視点から、リデュース(省資源・省エネルギー)、リユース(再利用)、リサイクル(再生使用)の実現を目指した製品、荷姿の設計や物流のプロセスを構築すること。

5. グランドデザインの実現に向けた関係者の連携推進：

メンバー等の関係者は発荷主企業、物流企業、着荷主企業等と行政の関係者がそれぞれの立場を理解したうえで、第1期の活動成果を踏まえ、循環型社会の形成に寄与するロジスティクスの構築を真摯に考え、関係者がグランドデザイン実現に向けた議論を重ね、実現に向けた到達目標を設定したロードマップを作成し、ステップバイステップで実行する。

6. 期間

2006年4月～2008年3月(2カ年)

7. 募集対象メンバー

循環型社会の形成に向かって、源流管理等の徹底によって環境負荷とコストを低減するため、サプライチェーン・リバースチェーンにおける物流の適正化および効率化を他メンバーと一体となって、その活動に貢献したい、または研究、実践していきたいと考えている、製造業・流通業・物流事業者・情報通信等の機器の製造およびサービス業・シンクタンク・コンサルティングファーム、自治体等。

8. 組織

1) ロジスティクス環境会議（本会議）

(1) 役割

ロジスティクス環境会議の基本方針を定める。

ロジスティクスの視点から企業間にわたる環境負荷低減を実現するための合意形成を行う。

合意事項の普及啓発と関係者に対する提言を行う。

(2) 構成

正副議長：JILSの会長、副会長

メンバー：企業の経営執行上の責任者、自治体の運営上の責任者

特別メンバー：ロジスティクスおよび環境問題に取り組む学識経験者・関連団体等

オブザーバー：関係各省、各課

2) 企画運営委員会

(1) 役割

ロジスティクス環境会議全体の活動の基本方針案を策定し、本会議に提案する。

ロジスティクス環境会議にて合意された基本方針に基づき、活動方針を策定し決定する。

活動方針に基づく各委員会の目標設定と活動計画及び活動の調整を行う。

各委員会の取組み状況と目標に対する達成状況を把握する。

各委員会の活動を積極的に支援すると共に、以下の機能と役割を担う。

- ・委員会として組織化されていない重要なテーマについては、本委員会の下に実態調査等を行い、必要な時期に委員会や研究会を組織する。
- ・各委員会ですまとめられた提案および提言案を取りまとめ、該当者に提出する。
- ・関係行政機関および関連団体との連携を図り、活動の充実化を推進する。
グリーン物流パートナーシップ会議のとの連携強化
- ・技術開発の要望を検討および整理し、関係者に提案活動を行う。

(2) 構成

メンバー：(10～15名程度)

委員長 一橋大学 学長 杉山氏

委員 各委員会、研究会の正副委員長など

第1期：各委員会の正副委員長及び主要メンバーと学識経験者等で構成する。23名で構成。

3) 委員会と研究会

委員会

(1) 役割

目標を達成するため、各委員会は主体的にテーマや内容を設定し、具体的な議論を重ねて合意形成を図りながら、ステップバイステップで環境負荷を低減するロジスティクスを構築するための実態調査による問題点の抽出および課題を明らかにする。

(2) 構成

本会議メンバーの意向を受けた、実務上の責任者または担当者と学識経験者で構成する。

研究会

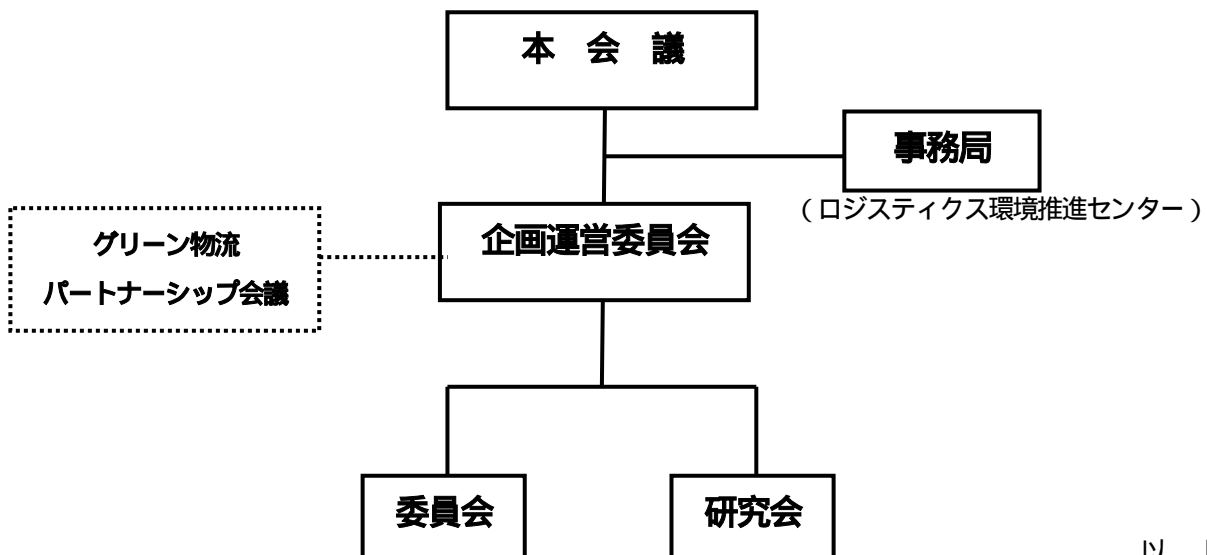
(1) 役割

これまでの実態調査等によって明らかになった課題等をもとに実行可能性を検証する。
また、具体的なテーマを設定し、関係者で調査研究を行う。

(2) 構成

本会議メンバーの意向を受けた、実務上の責任者または担当者と学識経験者で構成する。

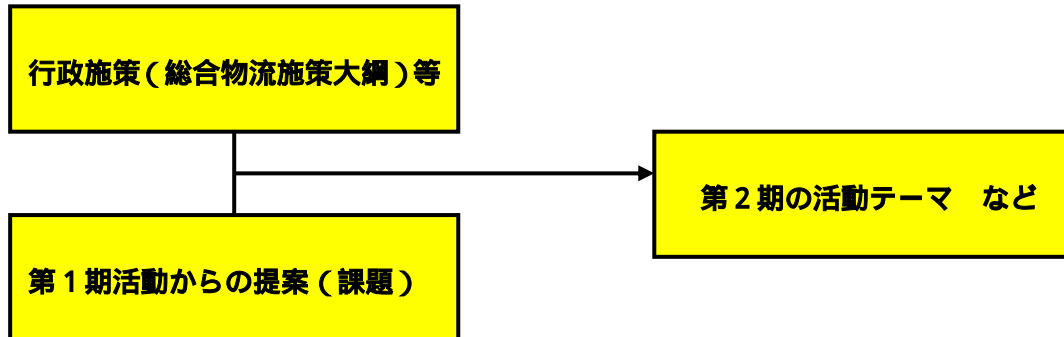
4) 組織イメージ図



以上

第2期ロジスティクス環境会議
活動テーマの検討スキームと関連主体との役割分担（案）

1. 第2期活動テーマの検討スキーム



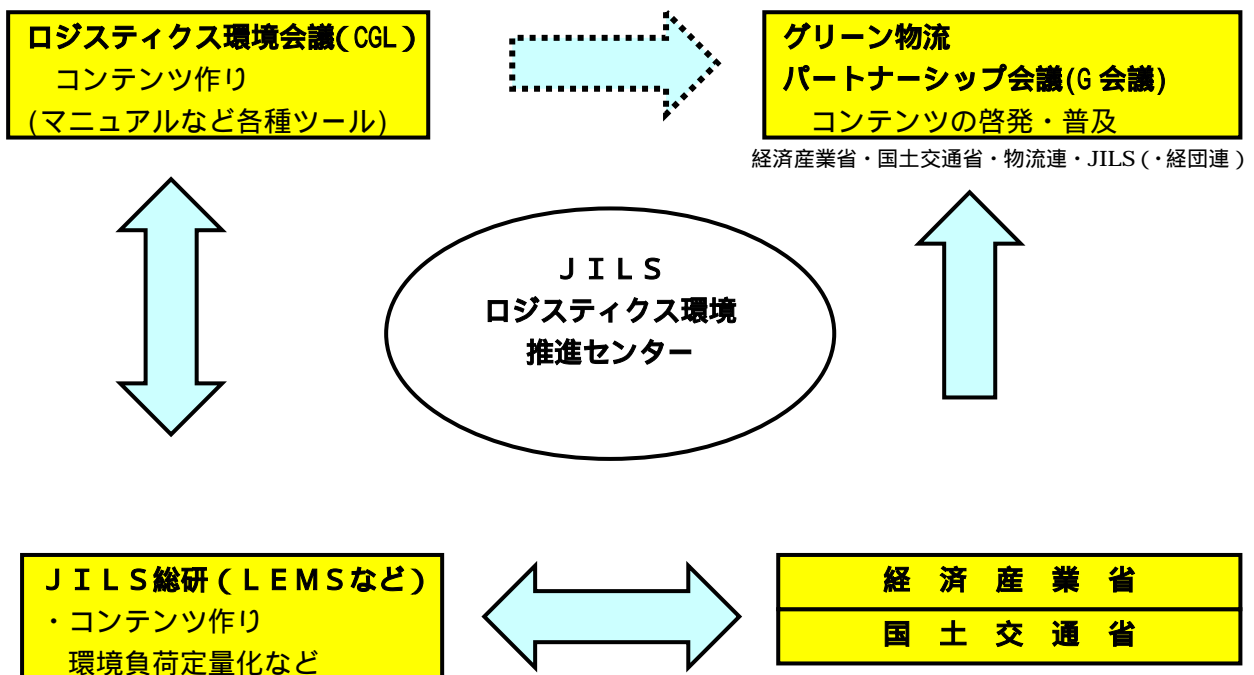
2. CGLと関連主体との役割分担

CGL第1期の活動期間中、ロジスティクス環境会議（以下、CGL）とグリーン物流パートナーシップ会議（以下、G会議）との役割分担に不明確な部分があった。

その原因としては、以下2点あげられる。

- ・CGLからG会議に提案すべきツール等が作成中の段階であったこと
- ・G会議が立上げ間もなく、G会議自体の役割も十分検討されていなかったこと

CGL第2期の活動を検討するにあたって、CGLとG会議等の関連のある主体については、以下のようなスキームを念頭に置き、第2期活動の検討を行いたい。



以上

各委員会からの提案骨子の整理

第1期CGLの活動を通して各委員から提案された内容を以下のとおり整理した。

第2期CGLの活動としては、JILS、CGLの優位性のある「企業間」を対象とし、具体化に向けた取組みが必要となる「実行可能性の検証」の部分にフォーカスを当てたい。

「企業間」、「実行可能性の検証」にフォーカスした場合、表中にあるとおり、関連団体や関係行政機関との連携も必要である。

対象 レベル	企業	企業間	関連団体	関係行政機関
実行 または 活用	<ul style="list-style-type: none"> 標準的な二酸化炭素排出量算定式による算定(パ) 物流に携わる者としての基本的な取り組みの考え方などの確認(源) モーダルシフト推進のためのマネジメントサイクルの推進(源) 「グリーンロジスティクス・フォーカスレポート(仮)」の作成(共) 			
実行可能性 の検証	<ul style="list-style-type: none"> 物流の取引条件見直しを行うための物流プロセスの可視化・定量化の推進(省) 	<ul style="list-style-type: none"> 標準的な按分方法の検討の推進(パ) 物流の取引条件見直しを行うための物流プロセスの可視化・定量化の推進(省) 静脈物流共同化プラットフォーム推進の実行可能性の検証(リ) 宅配包装資材の共同リターナブル化推進の実行可能性の検証(リ) 	<ul style="list-style-type: none"> 静脈物流共同化プラットフォーム推進の実行可能性の検証(リ) 宅配包装資材の共同リターナブル化推進の実行可能性の検証(リ) 	<ul style="list-style-type: none"> 排出係数、排出原単位の標準的な値の整備とその維持管理(パ) 静脈物流共同化プラットフォーム推進の実行可能性の検証(リ) 関係行政機関との情報交流の推進(リ)
要調査、検討および確認			<ul style="list-style-type: none"> 食品、自動車分野におけるリユース、リサイクルの効率的な物流の実現化に向けた提案(リ) 	

範例 (パ)：環境パフォーマンス評価手法検討委員会、(源)：源流管理による環境改善委員会、(省)：省資源ロジスティクス推進委員会

(リ)：リバースロジスティクス調査委員会、(共)：共通基盤整備委員会

第2期ロジスティクス環境会議 テーマと委員会構成（素案）

第2期のテーマに基づく活動組織構成として、「委員会」と「研究会」の2つからなる組織構成を提案したい。

1. 委員会・・・実態調査や課題整理を中心とする活動
2. 研究会・・・過去の実態調査、課題整理をベースとした実行可能性の検証や具体的なテーマ設定による関係者（該当者）の調査研究を中心とする活動

1. 委員会

1) グリーンサプライチェーン推進委員会（仮称）

(1) ミッション

環境負荷とコストを低減するサプライチェーン構築の推進

(2) 主な検討内容

発荷主企業、着荷主企業、物流企業間における取引条件見直しによる物流改善の推進 など
・店着価格制度 ・返品条件 ・時間指定（計画性の無いもの） など

(3) アウトプットイメージ（例）

『取引条件の見直しによる物流改善のロードマップ（仮称）』など

第1期活動委員会「省資源ロジスティクス推進委員会」「源流管理による環境改善委員会」

2) リバースチェーン効率化推進委員会（仮称）

(1) ミッション

適正かつ効率的な静脈物流を推進するリバースチェーンの構築

(2) 主な検討内容

・効率的なリバースチェーンを推進する法制度および手続きのあり方の検討 など
・関係行政機関との意見交換

(3) アウトプットイメージ（例）

『関連法制度に関する提言集』など

第1期活動委員会「リバースロジスティクス調査委員会」

2. 研究会

1) グリーンロジスティクス・フォーカスレポート推進研究会（仮称）

(1) 企業のグリーンロジスティクス活動の推進

(2) 主な検討内容

企業の環境報告書の記載内容等の調査

(3) アウトプットイメージ

「企業の環境報告書の調査報告書」など

第1期活動委員会「共通基盤整備委員会」

2) 静脈物流共同プラットフォーム構築推進研究会(仮称)

(1) ミッション

適正かつ効率的な静脈物流の推進するリバースチェーン構築の推進

(2) 主な検討内容

複数業界における共同物流プラットフォームの実行可能性の検証

- ・共同配送条件(取引条件含)
- ・情報システム(受発注、トレースなど) など

(3) アウトプットイメージ(例)

『静脈共同物流プラットフォーム推進調査報告書』など

(4) 対象とする主な製品郡など

- ・家電、OA、PC、プリンタなど

第1期活動委員会「リバースロジスティクス調査委員会」

3) 宅配便共同リターナブル包装資材推進研究会(仮称)

(1) ミッション

適正かつ効率的な静脈物流の推進するリバースチェーン構築の推進

(2) 主な検討内容

宅配便業界における共同リターナブル包装資材の実行可能性の検証

- ・共同化条件(コストや運用)など

(3) アウトプットイメージ(例)

『共同リターナブル包装資材推進調査報告書』

(4) 対象とする主な製品郡など

- ・宅配便など

第1期活動委員会「リバースロジスティクス調査委員会」

4) その他のテーマ候補例

(1) 環境パフォーマンス算定手法研究会

環境パフォーマンス評価手法検討委員会の継続

(2) 企業の環境負荷低減活動を支援する技術の調査研究

第2期新規テーマ

- ・データ収集ツールの活用(バーコード、RFID、データキャリア、荷札、ラベルなど)
- ・データ交換ツールの活用(EDIなど)
- ・データベースの活用(道路地図、交通情報など) その他

(3) その他

<その他の論点>

環境パフォーマンス評価手法検討委員会の活動は、「LEMS」に一本化したいがどうか。

ただし、「LEMS」における調査結果の検証などは企画運営委員会を窓口として協力、支援を行う。

資料3-2「関連主体との役割分担」参照

講習会(共通基盤整備委員会)については、企画運営委員会のもとに企画、運営を行ってはどうか。

第2期では、研究会は具体的なテーマに基づき開催したいが、毎月定例的にランダムなテーマで行ってきた研究会(共通基盤整備委員会)は第2期でも継続して開催したほうが良いか。

以上